

2016年（平成28年） 5月20日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

4/28～5/11のNYMEX・WTIIは、カナダの森林火災によるカナダ産原油の生産減少の影響などから、43～46ドルと高めに推移した。

5月12日は、前日の原油在庫の減少などの影響から続伸した。6月限の終値は、前日比0.47ドル高の46.70ドルとなった。

週末13日は、利益確定の動きから反落した。カナダの森林火災やナイジェリアの治安の悪化による産油量の減少、米国内掘削リグの減少など値上がり要因も散見されたが、OPEC(石油輸出国機構)の4月の生産量が増加したことから、6月限は前日比0.49ドル安の46.21ドルで終了した。

週明け16日は、世界の原油価格が20ドルを割り込むと予想していた米ゴールドマンサックス社が、ナイジェリアの混乱やカナダの森林火災を理由に、原油価格予想を50ドルに引き上げたことから値上がりに転じた。6月限の終値は、前週末比1.51ドル高の47.72ドルとなった。

17日は、IEA(国際エネルギー機関)が、世界の供給過剰がいくつかの要因で緩和される可能性があることと述べたこと、今週発表の米原油在庫が減少するとの予想が出されたことから続伸した。6月限の終値は、前日比0.59ドル高の48.31ドルだった。

18日は、EIA(米エネルギー情報局)が発表した週報の結果では、価格の大きな動きはなかったが、FOMC(連邦公開市場委員会)の議事録で6月の米利上げの可能性があると明らかになり、ドル高が進行して原油の割高感から値下がりした。6月限の終値は、前日比0.12ドル安の48.19ドルだった。

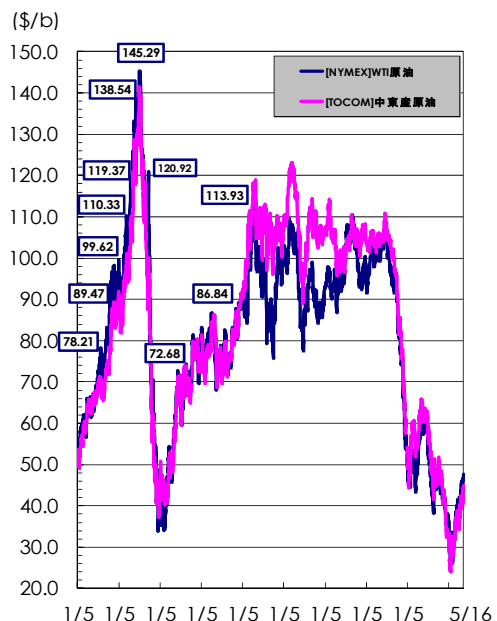
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前週は40～43ドルで推移した。12日は44.50ドル、13日も44.50ドル、16日は45.00ドル、17日は46.00ドル、18日は45.90ドルと小幅な値動きが続いた。

為替は、前週は106～109円台でやや円高だった。12日は108.37円、13日は108.94円、16日は108.83円、17日は108.96円、18日は108.88円と小幅な値動きが続いた。

主要元売会社の5月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、1.0円の値下げから1.5円の値上げだった。原油は小幅に値上がり、為替は円安で、原油コストは小幅に値上がりした。

そのような中で、5月16日時点の小売価格は、ガソリンが0.8円値上がりの118.8円、軽油は0.5円値上がりの100.4円、灯油は0.1円値上がりの62.3円となった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油は2週振りの値上がり、灯油は3週連続の値上がり。この週の原油コストは値上がり、元売りの卸価格も値上がりだった。

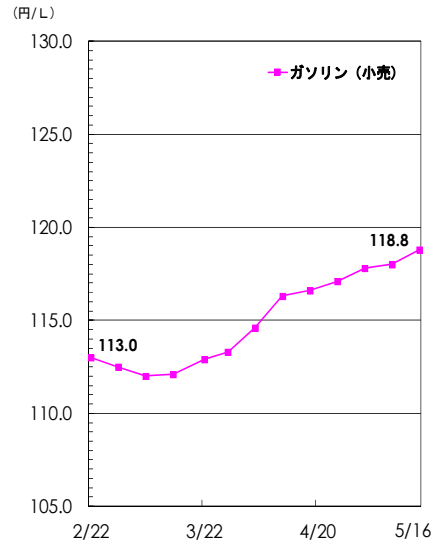
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/8 ~ 5/14	3,664 ▼ -165	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.3 ▼ -3.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/14	15,472 ▲ 347	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/16	44.88 ▲ 2.25	▼ -19.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/16	47.72 ▲ 4.28	▼ -11.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	37.16 ▲ 1.33	▼ -19.01
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	26,134 ▲ 744	▼ -16,228
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.81 ▲ 0.87	▲ 8.09
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/16	109.83 ▼ -1.38	▲ 10.81



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	1,029 ▼-40 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	937 ▲9 ▲	▲ -	
	輸出	"	117 ▲38 ▲	▲ -	
	在庫	5/14	1,827 ▼-26 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	40.4 ▼-0.9 ▼	▼ -21.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	42.3 ▲0.4 ▼	▼ -21.0
		(TOCOM/中部)	5/16	40.7 ▼-0.3 ▼	▼ -22.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	118.8 ▲0.8 ▼	▼ -23.3	

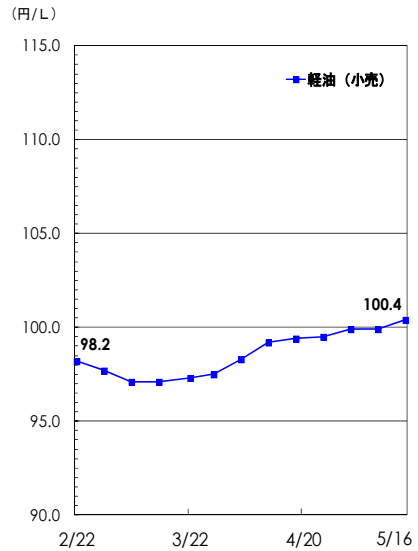
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

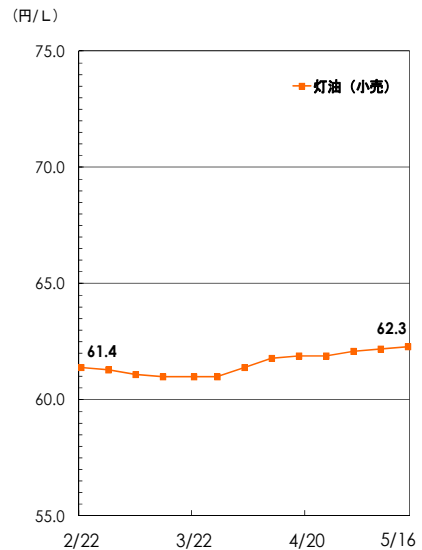
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	845 ▲136 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	537 ▲144 ▼	▼ -	
	輸出	"	138 ▼-27 ▼	▼ -	
	在庫	5/14	1,838 ▲170 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	36.8 ▼-0.8 ▼	▼ -19.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	38.3 ▲0.8 ▼	▼ -20.3
		(TOCOM/中部)	5/16	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	100.4 ▲0.5 ▼	▼ -20.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/8 ~ 5/14	218 ▼-52 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	168 ▲76 ▲	▲ -	
	輸出	"	0 ▼-49 ➡	➡ -	
	在庫	5/14	1,418 ▲51 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/10 ~ 5/16	35.9 ▼-0.5 ▼	▼ -22.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/10 ~ 5/16	38.1 ▲0.8 ▼	▼ -20.7
		(TOCOM/中部)	5/16	36.2 ▼-0.3 ▼	▼ -22.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/16	62.3 ▲0.1 ▼	▼ -22.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

18日のNYMEX市場のWTI原油は、ドル高が進行したこと  
から反落した。

EIAが発表した週間石油統計は、原油在庫が事前予想  
(280万バレル減)を覆す130万バレル増だったが、ガソリン、  
暖房油の在庫もいずれも減少となり、原油価格に大きな  
影響を与えなかった。一方で、FOMCの議事録から、米国の  
6月の利上げに対する支持が予想外に広がっていることが  
分かり、ドル高が進み、これによりドルで表示される原油  
の割高感が強まり値下がりした。

6月限の終値は、前日比0.12ドル安の1バレル48.19ドル、  
7月限の終値は、前日比0.21ドル安の1バレル48.78ドル  
だった。FOMC議事録の公表前には、一時48.95ドルを  
記録した。

EIAによると、5月16日時点のガソリンの小売価格は全  
米平均で前週比2.2セント値上りの1ガロン2.242ドル  
(65.0円/ℓ)となった。ディーゼルは2.6セント値上りの  
2.297ドル(66.6円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、  
ディーゼルは6週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月8日～14日に休止したトッパ一能  
力は、29.7万バレル/日と先週から17.6万バレル/日の増  
加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は366.4万kl、前週に比べ16.5万kl減少。前  
年に対しては30.4万klの増加。トッパ一稼働率は86.3%と前  
週に対しては3.8ポイントの減、前年に対しては9.2ポイント  
の増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産とな  
り、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.8%減、ジェ  
ット/0.4%増、灯油/19.2%減、軽油/19.1%増、A重油/5.9%  
減、C重油/35.5%増。今週のC重油の輸入は2.2万kl(前週  
比0.7万kl増)。軽油の輸出は13.8万kl(前週比2.7万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比では全油種が増加した。前年比  
ではガソリン、ジェット、灯油が増加し、その他の油種で減少  
した。前週のガソリンは前週比、前年比ともに二桁の減少と  
なったが、今週の出荷は93.7万kl(対前週1.0%増)と2週振  
りに前週比、前年比ともに増加となったものの、2週連続で  
100万kl台を下回った。

ジェット9.6万kl(対前週6.7%増)、灯油16.8万kl(対前週  
82.6%増)、軽油53.7万kl(対前週36.6%増)、A重油19.9万  
kl(対前週54.3%増)、C重油29.0万kl(対前週40.8%増)。

(単位：千KL)

	今週 (5/8 ~ 5/14)	前週 (5/1 ~ 5/7)	前週比	
ガソリン	937	928	▲ 9	(1%)
ジェット燃料	96	90	▲ 6	(7%)
灯油	168	92	▲ 76	(83%)
軽油	537	393	▲ 144	(37%)
A重油	199	129	▲ 70	(54%)
C重油	290	206	▲ 84	(41%)
合計	2,227	1,838	▲ 389	(21%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月14日時点の在庫はガソリン、A重油が取り崩しとな  
り、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはC重  
油のみが取り崩し、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは182.7万kl、前週差2.6万kl減。前年に対しては  
2.2万kl多い。

灯油は141.8万kl、前週差5.1万kl増。前年に対しては3.3  
万kl多い。

軽油は183.8万kl、前週差17.0万kl増。前年に対しては  
14.0万kl多い。

A重油は83.0kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては0.8万  
kl多い。

C重油は212.0万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては  
2.6万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (5/14)	前週 (5/7)	前週比	
ガソリン	1,827	1,853	▼ -26	(-1%)
ジェット燃料	1,189	1,093	▲ 96	(9%)
灯油	1,418	1,367	▲ 51	(4%)
軽油	1,838	1,668	▲ 170	(10%)
A重油	830	844	▼ -14	(-2%)
C重油	2,120	2,088	▲ 32	(2%)
合計	9,222	8,913	▲ 309	(3.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月10日から5月16日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートも円安で、値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン93~94円台、軽油36~37円台、灯油35~36円台でほぼ横ばいだった。海上スポット価格は、ガソリン94~95円台、軽油37~39円台、灯油36~37円台で、値上がりした軽油を除き横ばいである。また、先物価格はガソリン95~96円台、軽油37~39円台、灯油36~38円台だった。原油コスト値上がりの影響が製品スポット市場にも波及し、先物を中心に水準はやや上向いた。

EMGマーケティングは19日、21日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、全油種2.0円値上げの旨を通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、原油コストの値上がりの影響を受け、堅調に転じた。週間のガソリン販売量は、前週同様90万kl台だった。

5月第4週(5月19日~5月25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月10日~5月16日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.9円、灯油は0.5円、軽油は0.8の値下がり、東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.3円、灯油は0.1円、軽油は0.1円の値下がりだった。また先物価格は、ガソリンが0.4円、灯油が0.8円、軽油が0.8円の値上がりだった。原油コストは値上がり、スポット製品価格は先物から堅調に転じた。

5月第4週の大手元売の卸価格は、1.0円の値下がりから1.5円の値上がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/10 ~ 5/16)	前週 (5/6 ~ 5/9)	前週比	
レギュラー	40.4	41.3	▼ -0.9	
灯油	35.9	36.4	▼ -0.5	
軽油	36.8	37.6	▼ -0.8	

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (5/10 ~ 5/16)	前週 (5/6 ~ 5/9)	前週比	
レギュラー	42.3	41.9	▲ 0.4	
灯油	38.1	37.3	▲ 0.8	
軽油	38.3	37.5	▲ 0.8	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/10~5/16実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.9	▲ 0.4	▼ -0.2
灯油	▼ -0.5	▲ 0.8	▲ 0.1
軽油	▼ -0.8	▲ 0.8	➡ 0.0
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月16日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.8円値上がりの118.8円、軽油は0.5円値上がりの100.4円、灯油は0.1円値上がりの62.3円だった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油は2週振りの値上がり、灯油は3週連続の値上がり。ガソリンは、10週で累計6.8円の値上がり。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは40都道府県、横ばい3県、値下がり4県だった。沖縄県を除く都道府県別のガソリンの全国最安値は、千葉県(前週比0.3円高)の114.4円で、埼玉県(同1.5円高)と岡山県(同0.9円高)が114.8円で続いている。最高値は長崎県(同0.2円高)の

127.2円だった。都道府県別で最も値上がりしたのは滋賀県(同2.7円高)で120.6円、最も値下がりしたのは栃木県(同0.4円安)の117.5円だった。

原油コストは小幅に値上がり、卸価格も一部を除き値上がりだった。製品スポット市況も先物から堅調で、次週の小売価格も、小幅な値上がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)		
	今週 (5/16)	前週 (5/9)	前週比	直近高値
レギュラー	118.8	118.0	▲ 0.8	08/8/4 185.1
灯油	62.3	62.2	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	100.4	99.9	▲ 0.5	08/8/4 167.4

小売価格

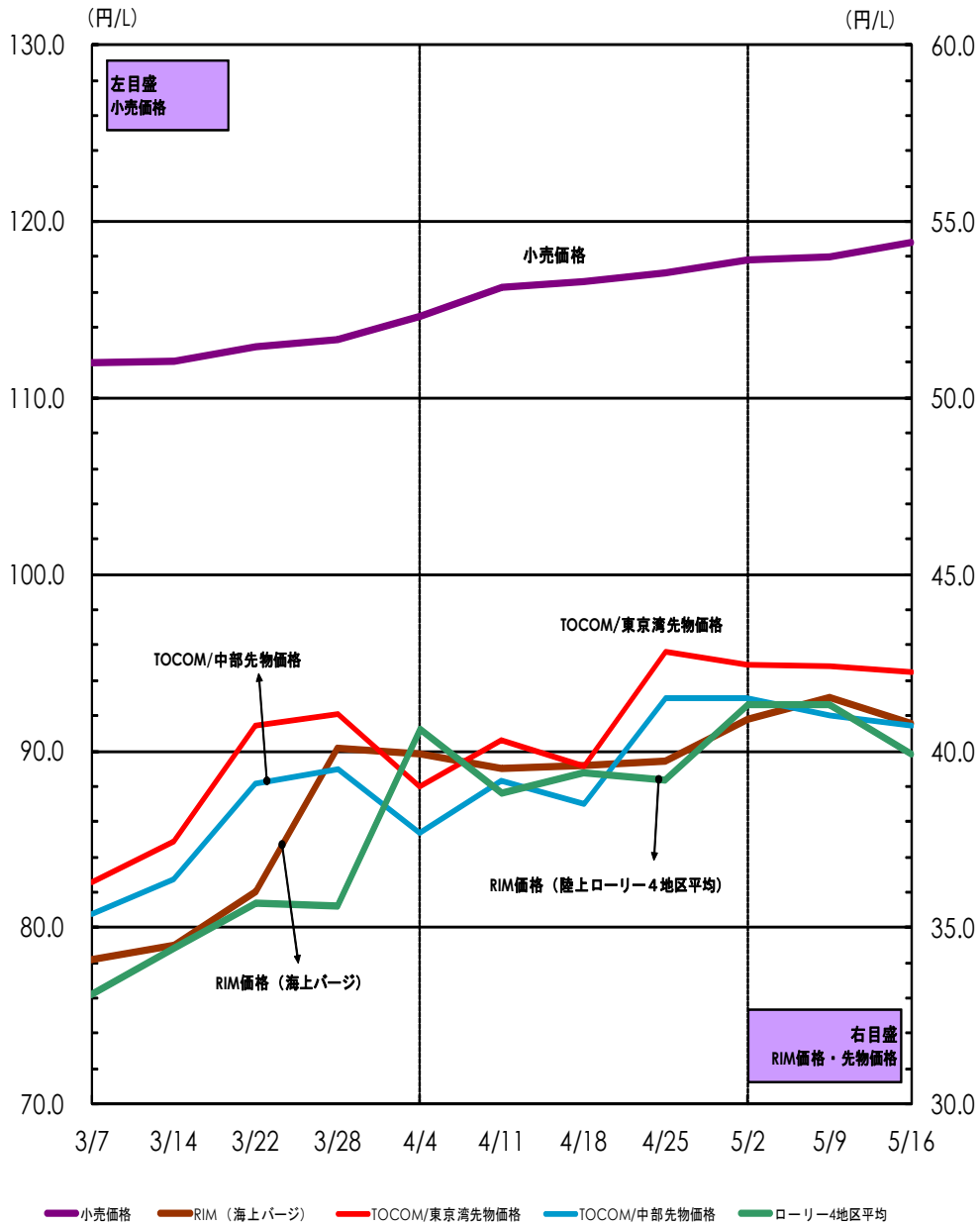
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2016/3/7 ~ 2016/5/16)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2016第8号)の公表は、5/27(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。